

## 2021年度夏季手当回答に対する長野地本見解

コロナ禍の中、日々の安全・安定輸送と安心の提供に現場第一線で奮闘する組合員の皆さんに心から敬意を表します。

私たちは社会インフラとしての役割を果たすべく地域に根差した鉄道事業を支え、組合員一人一人が感染防止の自己管理を徹底し「命」を最大の価値基軸に据え、日々の安全・安定輸送の完遂と、安心の提供はもとより、サービス品質の確保・向上に徹し、災害や異常時対応等に厳しい状況の中で奮闘をしてきた。

新型コロナウイルス感染症拡大は1年以上経つ今も収束する状況とはなっていない。この影響を受け21春闘は、これまでに前例のない「昇給係数2」という回答で妥結した。職場からは様々な意見が出され「定期昇給が半分では納得がいかない」「自分の生涯に関わってくる定期昇給の減は簡単に認めることは出来ない」「一時帰休やコロナ禍に即したダイヤの見直しなど、JRグループで行われている対策などは実施せず、それにより更なる赤字を生み出しているのではないか」などの声が多く出された。またコロナ禍で感染と隣り合わせの中、働く者のモチベーションを低下させた結果、離職者や転職を検討するという声が増えてきた。長野地本はこれらの切実な声や事態を受け、組合員の怒りを強く会社側に訴えていくべきであると主張し、各機関に対して問題提起を行ってきた。苦渋の選択とは言え、妥結ありきでは私たちの怒りは会社へは伝わらない。私たちは労働組合として主張すべきことはしっかりと主張し、納得がいかない怒りの姿勢を組織の内外に拘らず、しっかりと示していくべきである。

長野地本は21春闘において、JRグループで唯一定期昇給カットを受けたという悔しさを忘れず、今回の夏季手当交渉に対しても、組合員と夏季手当要求実現に向けて議論を作り出すなどして本部交渉団を支えて来た。そういった状況の中、本日回答指定日を前に2021年度夏季手当、基準内賃金の2.0ヶ月という回答が会社より示された。この回答に対し私たちは到底納得することは出来ない。自分の家族や生活を守り、生きていかなければならないという問題に直面している。夏季手当は私たちの日々の生活に直結する重要な賃金である。会社の言う「個別な事案」という言葉の先には現場で汗して働く社員一人一人が存在し、家族がいる。夏季手当の満額支給という形で社員と家族の生活と幸せを守る責任が会社にはある。今回の回答は組合員の生活や労働実感を蔑ろにし、経営を優先したものであると言え、断じて認めることは出来ない。

中央本部は夏季手当回答に対し「組合員と家族の生活確保とモチベーション維持・向上を求める2021年度夏季手当等に関する緊急再申し入れ」を提出した。要求実現に向けて長野地本は最後の最後まで諦めずたたかい抜く。組織の団結強化を基軸に、私たちが置かれている危機的な状況を捉え返し、中央本部と共に職場からたたかいを創り出していこう！

2021年 6月10日  
東日本旅客鉄道労働組合  
長野地方本部